

科 目 名	地域社会と経済	授 業 形 態	講義科目
担 当 者	野田 裕康、小山 郁也、大石 章、篠田 敬子	単 位 数	2単位

地域社会と経済について本学内外の講師から地域と生きた「経済」を学ぼう

1. 授業内容

日本の経済や地域社会は、今、問題がたくさんあります。それが皆さんの就職問題にも跳ね返ってきています。大学卒の離職率が高くなっていることです。この講義では若者の就職、地域のまちづくりや企業の現状、市役所や県庁のいろいろな取り組みを見ていきます。講師は本学教員と、企業人・公務員・NPO・市民の方々と、地域の第一線で活躍されている方が自分の体験に沿って講義していきます。

2. アクティブ・ラーニングの要素

リアクションペーパー

3. 到達目標

皆さんに必要なのは、生きた現実を知り、実社会に対する現実感覚を身につけることです。この科目の到達目標は、「地域の経済や社会が、どのような状況にあるのか」、「どのような問題を抱えているのか」について学習することです。地域といっても、飯能市や入間市に限った話ではありません。おそらく日本全国の地方や地域が、共通して抱えていると思われるような問題や課題について勉強します。そこから今後地域に生きる社会人として、何が問題でそれをどう解決していくのか考えていく力を養います。

4. 到達目標となる駿大社会人基礎力/養成する能力要素

④論理的・多面的思考力／⑥構想力

5. 卒業認定・学位授与方針との関連

この科目は、ディプロマ・ポリシー(全学部)の「(5)総合的な力」と関連しており、社会のあるべき姿と現状を適切に認識し、様々な角度から分析して課題を発見する力を養います。

6. 関連科目

地域と金融、地域社会と環境

7. 授業外における学習方法及び必要な時間

講義時に配布された資料を再度読み直し、重要な箇所は下線を引くなど復習しておくこと（1時間）
講義時に要点など記入した自分のノートを、再度整理しておくこと（1時間）
講義後に理解できなかった用語などを、メディアセンターや経済辞典などで確認すること（2時間）

8. 成績評価方法

評価方法	評価割合	成績評価基準等
レポート	60%	毎週授業終了時に提出するレポートを5段階で15回評価します
受講態度	40%	私語、スマホ操作、内職、居眠りなどは毎回減点対象とし、教員が適宜判定します
その他関連する事項	-	欠席回数が4回を越えた場合には、成績評価の対象外となり、単位修得できないことになります

9. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で理解度確認及び復習として、小レポートを作成し、授業終了時に提出します。

10. 実務経験のある教員による授業科目等

担当教員の実務経験	実践的な教育の取組
—	—

授業計画	
第1回	ガイダンス、地域の社会とは、地域の経済とは
第2回	若者の就職状況（中卒、高卒、大卒、院修了）
第3回	様々な社会と企業（働くこと、遊ぶこと、学ぶこと）
第4回	地域の元気な取り組み
第5回	ドイツの地域経済・地域社会
第6回	地域での自然環境保全活動の実際
第7回	地域の自然の現状、今後いかに管理していくか
第8回	自然で地域を活性化する ～エコツーリズム～
第9回	地域社会で働く意義 ～企業が求める‘人財’とは・・・～
第10回	地域の安全と安心に貢献する ～誰も知らない保険のしくみ～
第11回	地域の一隅を照らす仕事 ～「喜ばれる喜び」を生きがいに～
第12回	「住み続けられるまちづくり」に貢献する
第13回	「元気な子どもが育つまち」をサポート
第14回	シビックプライドを育てるメディア
第15回	まとめ

11. テキスト・参考書等

書名	著者	出版社	ISBN	備考
—	—	—	—	テキストは使用しない。